

# 養成所 ニュース

## 第33期生170名が受講スタート!!



### 人を変え社会を変える実践の担い手として

33期生の皆さん、本養成所への入学おめでとうございます。そして本養成所で学び社会福祉士の国家資格を取得された皆さん、合格おめでとうございます。

今から約130年前、本協会の初代会長である石井亮一先生は妻、筆子先生と共に滝乃川学園を設立され、多くの苦難を乗り越えて、知的障害のある子どもたちの福祉の向上に多大な貢献をされました。飢える時代も知的障害のある子どもたちと生活を共にし、明日の食料も手に入らないとき、神に祈りながら「自分も一緒に餓死しても本望」との言葉があります。滝乃川学園は地域社会の排他的関係や子どもたちの教育が認められなかった時代に、常に障害のある利用者を中心に置きながら社会の矛盾と対峙し切り開いてきました。その歴史は滝乃川学園の120周年誌に詳しく記載されています。

今は物質的には豊かな時代となりましたが、心の豊かさとはかけ離れた実態があるのではないのでしょうか。そして障害のある人が大切にされているとはいえない現実があります。

表題の「人を変え、社会を変える」という言葉は、

P・F・ドラッガーの『非営利組織の経営』という著書の中に出てくる言葉です。非営利組織の経営とソーシャルワーク実践の目的は同じであると思います。利用者の生活を変え、障害のある方にやさしい社会に変えていかなければなりません。

社会福祉士は国家資格としてソーシャルワーク実践の中核に位置づけられており、本協会の養成講座は最も歴史のある実績を伴った講座です。この講座を通じて学び、資格を取得した皆さんが、次の時代を担い、「人を変え、社会を変える実践の担い手」であるソーシャルワーカーとして活躍されることを願います。

コロナ禍にあって厳しい生活が続きますが、「地域共生・意思決定支援」の新しい時代に、共に学び、障害のある方が充実した生涯を送ることができる社会の実現に向けて、皆さんが新たな時代を拓くことを期待いたします。



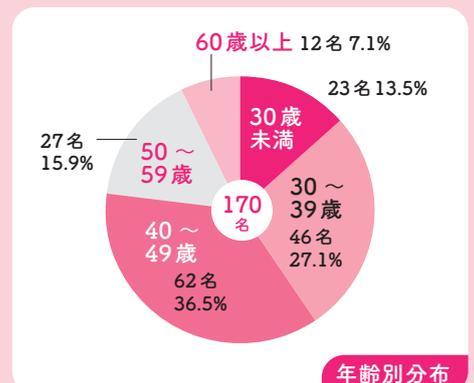
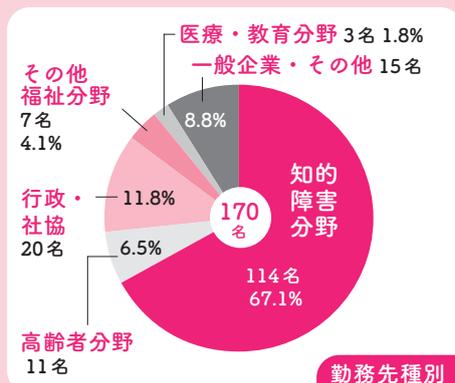
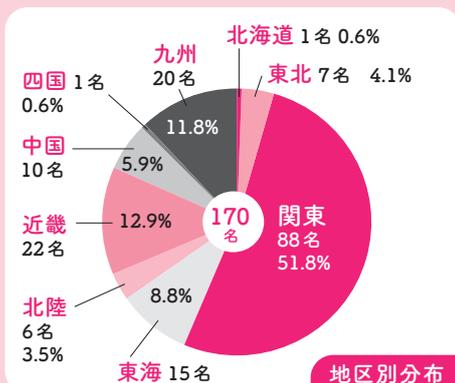
社会福祉士養成所 所長  
**井上 博**  
(日本知的障害者福祉協会 会長)

### 第33期生の概要 (令和3年6月現在)

第33期生社会福祉士養成所の受講生は、170名です。概要については下記の通りとなります。

運営状況(過去3年間)

年度(期生)	応募者数	入学者数	修了者数
令和元年度(31期生)	252名	241名	235名
令和2年度(32期生)	208名	199名	
令和3年度(33期生)	181名	170名	



## 第33回

## 国家試験結果報告

第33回社会福祉士国家試験において本養成所より139名（うち2年度修了者84名）が合格しました。前年度（第32回試験）は153名（うち元年度修了者93名）でした。

## これまでの国家試験の結果

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第31回試験	41,639	12,456	29.9
第32回試験	39,629	11,612	29.3
第33回試験	35,287	10,333	29.3
第1回試験からの合計	947,212	263,916	27.9

## 本養成所修了者の国家試験の結果

	総数 合格者(人)	新卒	
		受験者(人)	合格者(人) 合格率(%)
第31回試験 (29期卒業生)	138	200	73 36.5
第32回試験 (30期卒業生)	153	195	93 47.7
第33回試験 (31期卒業生)	139	201	84 41.8

## 第34回

## 社会福祉士国家試験の概要 (予定)

1. 試験日	令和4年2月6日(日)
2. 受験手数料	15,440円(昨年度額)

3. 受付  
(提出期間)

令和3年9月9日(木)から  
**10月8日(金)**  
(消印有効)

※詳細は、社会福祉振興・試験センターのホームページ (<http://www.sssc.or.jp/>) をご参照ください。

## From Teacher

## 科目担当教員から

森詩恵 (大阪経済大学)  
「高齢者に対する支援と介護保険制度」担当

「新型コロナウイルス感染症と  
高齢者支援の課題」

第33期生のみなさま、ご入学おめでとうございます。新型コロナウイルス禍においても、新しいことに取り組みましょうとするお気持ちに敬意を表します。

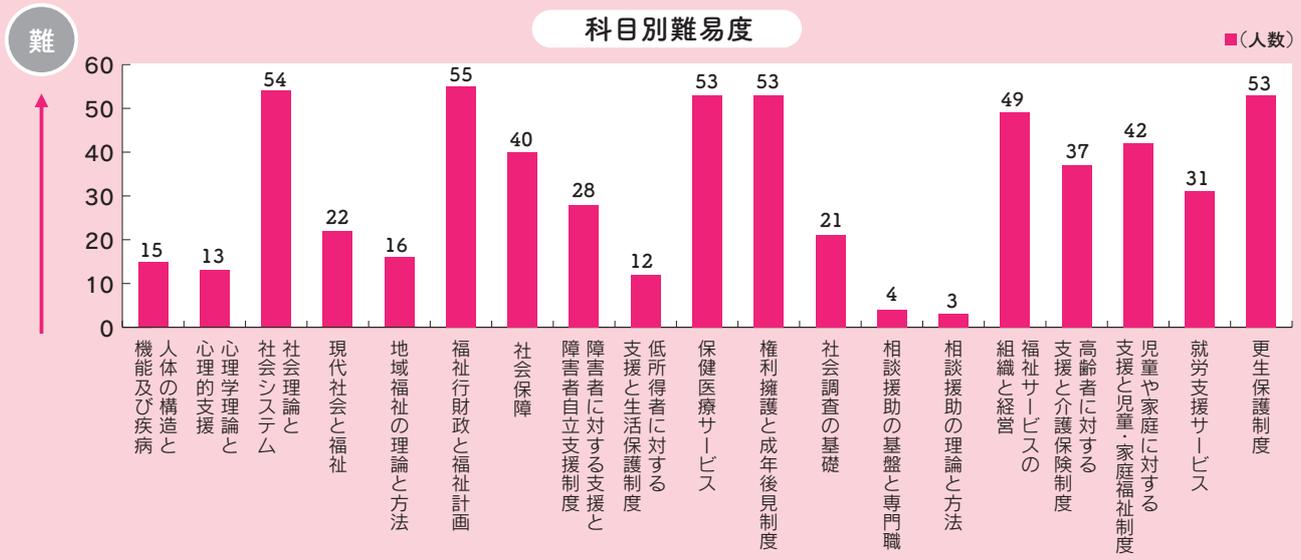
この未曾有の災禍によって、私たちの生活は一変し「ニューノーマル」(新しい生活様式)への移行が必要となりました。そのようななかで、私も専門である高齢者福祉分野において、改めて政策や取り組みの課題に気づくことができました。その課題の一つは、高齢期における生活支援のあり方です。高齢者の単身・夫婦世帯増加のなかで、高齢期には外出を促し、地域での活動や取り組みに積極的に参加することが、高齢者の健康寿命を延ばし、生きがいをもって過ごせる一つの方法だと考え、その支援を重視してきました。当然、今後もその取り組みは重要ですが、新型コロナウイルスのもとでは外出は制限され、多くの人が集まることも難しい状況です。ニュースでも「認知症が進行した」「足腰が弱まった」など、新型コロナウイルス禍での高齢者の生活・健康維持の難しさ、人とのつながりの維持の難しさが取り上げられました。そのため、今後は、対人福祉サービス支援における支援者のさらなる意識改革を行い、ITテクノロジーやICTの活用等のDX(デジタ

ル・トランスフォーメーション)によって、新しい高齢者支援の展開が必要であると感じました。現在では、支援者の創意工夫によって、オンラインを活用しての支援やイベントなども実施されるようになり、このことによって、今後は外出が難しくなった高齢者も在宅で生活しながら、人や地域とつながることができる新しい支援の可能性をも見つけられたと思います。

もう一つの課題は、人材確保の必要性です。社会福祉分野での人材不足は長年の課題であり、近年では新たな在留資格「介護」を創設するなど、外国人介護人材の受け入れも始まりました。また、2014年介護保険制度改正では、予防給付(訪問介護・通所介護)を市町村が取り組む地域支援事業に移行し、既存の介護事業所に加え、NPO、住民ボランティア等による多様なサービス主体からのサービス提供が可能となりました。とくに、生活支援・介護予防サービスでは、高齢者がサービス提供の担い手として期待されており、社会参加や社会的役割を持つことが高齢者の生きがいや介護予防につながるとも述べられています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、これまでのようにボランティアが関わりたいと思っても施設に訪問することやイベントに参加することができない状況であり、当然、外国人介護人材の受け入れも期待できない状況です。このように、社会福祉分野での人材確保に関して、改めて住民や高齢者のボランティア、外国人介護人材に依存することなく、労働環境等の整備によって人材確保に取り組む必要があるといえます。

このような厳しい状況ですが、社会福祉士を目指すみなさまには、私たちの生活を支える専門職として今後もご活躍していただけるよう、精一杯その学びのお手伝いをさせていただこうと考えております。

# 第33回 国家試験に関するアンケート



令和元年10月に修了した第30期生213名を調査対象とし、173名(①受験をした155名②申込みをしたが当日受験しなかった10名③申込みをしなかった8名)からの回答が得られました。図は受験者の回答をもとに難易度(難しいと答えた人数)を示しています。

※厚生労働省への報告のため、現在もアンケートは回収をしていますので、未提出の方は早急に提出してください。

## 先輩からのメッセージ

### 合格した方からのコメント

#### 〈スケジュールと環境の工夫〉

- 2年目の7月まではレポートと実習に集中。8月のオンデマンド講義の後、9月から受験勉強を開始した。
- 養成所から案内のあった、中央法規出版「合格応援バック」のモデルプランに忠実に学習を進めた。
- スマホは別の部屋に置き、机には勉強関連のものにのみした。

#### 〈学習方法の工夫〉

- 過去問と模擬問題集、模擬試験の解説を読み込み理解を深めた。独特な言い回しも多いため、過去問は必須と感じた。
- 中央法規の5年分の過去問を繰り返し解いた。模擬問題集まで手が回らなかったが、絶対にやっておくべきだったと反省している。
- 隙間時間をつかって、穴埋め問題やスマホで過去問をくり返した。覚えにくい所はまとめ、参考書のコピーを貼り、問題にتماすくと見直した。
- 過去問は解説のあるものを選び、全ての選択肢を確認するようにした。覚えようとするより、問題をたくさんやった方が自然と覚えられた。
- 新聞も大切に。やはり、時事的なことはしっかりと押さえておくべき。今もできる限り続けている。
- 映像講義を確認の材料とした。耳から聞き流すことは、時間の節約にも繋がった。

#### 〈気持ちも大事〉

- 福祉六法も使い、社会福祉士になったときの力をつけたいと学習に励んだ。社会福祉士としての自覚を身に付ける勉強方法になった。

- 自分で用語辞典、人名辞典をノートで作り、いつ出題されたか等をメモし、少しでも意識を高めるよう努力した。
- 一人では勉強が続かないので、勉強記録のアプリを入れ、資格取得をめざす人たちの勉強記録から刺激を受け、勉強継続に繋がった。
- レポートの返信のコメントやメルマガで励まされ頑張れた。
- 「単なる暗記ではなく、考えながら、理解しながら」取り組むという先生のアドバイスを何度も思い返ししながら、遠回りでもひとつひとつ調べ、テキストを精読しながら進めたのが基礎になった。

### 残念ながら合格できなかった方からのコメント

- この講座で福祉の全貌が見えた。合格まで受験するつもり。業務で圧倒的に時間がなかったが、福祉の仕事をする上で希望になる。
- レポートの提出が終わり、バーンアウトしてしまった。
- 過去問題を始めたのが2週間前。出題文の言葉尻や言葉のあや、ひっかけに対して言葉を解釈、理解することに慣れておらず難解であり、試験は落とすためのものだと感じた。結果1点不足ということで、勉強時間が足りなかったことが更に悔やまれることとなった。
- マークシート方式に慣れておらず、当日、スレてしまい、塗り直しに時間を使ってしまい、更に気持ちの余裕がなくなり慌ててしまった。
- 順調に学習を進めたが、施設職員のため、緊急事態宣言下でリスクは避けたいので試験は受けなかった。PCR検査を義務付けるなどしてもらえれば、受けることができたかもしれない。



## コロナ禍での学びをすすめる

第33期生の皆様ご入学おめでとうございます。既に、レポート学習を始めた方も多くいらっしゃると思います。1年半を共に学んでいきましょう。第32期生の皆様、最後のレポート課題ですね。ほっとしすぎませんように。相談援助演習の後、受験体制に切り替えていきましょう。

この1年間皆様の支援現場や勤務先、ご家庭ではどのような変化があったのでしょうか。「新たな生活様式」が求められ、「ニューノーマル」という言葉も使われるようになりました。この間、社会では、新たな生活困窮が生みだされたり、社会的孤立や社会的排除が顕在化したり、地域生活課題は深刻な状況です。そして、支援現場の皆様からも、「利用者が一時帰宅ができない」「家族面会はオンラインや電話で」「外出プログラムをやめている」「ボランティアさんの受入を止めている」などの話を聞きます。何よりも利用している方のストレスは大きくなっていると思います。そして、現場の職員の皆様は、日々、「今まで」と違う工夫に取り組まれています。

そのような中、当養成所は、支援現場の皆様のご協力により実習の機会をいただき、実習者は、貴重な体験をしてきました。しかしながら、感染拡大の時期と重なったことで、実習日程の

再調整、再々調整が余儀なくされたり、支援現場で利用者・職員が感染し一時中断となったり、影響があることも事実です。先日、当養成所では、今年度の実習受入についてのアンケートを実習登録施設に実施しました。昨年と違う傾向としては、「判断ができない、受入困難」と回答した施設等は減少し、受け入れ可能な施設等が20か所増え、全体の6割強が受入が可能と回答をいただきました。情報も少なく見通しがもてなかった状況から、この点を抑えれば、安全に実習受入も可能と考えていただけるようになったとも受け取れる結果でした。

それにしても、入所型の高齢者施設、障害者施設で多くのクラスターが出ている状況はかわらずあります。各施設等、十分な感染拡大防止対策に取り組まれながら、合わせて事業継続できるように、サービスの質が確保できるように進んでいます。受講者への今年の国家試験アンケートでは、「スケジュールどおり学習していたが、コロナによる緊急事態宣言が出ている状況で施設従事者としてリスクを負うことは避けたく、試験を受けなかった。」という声がありました。今期スクーリングの事前アンケートにも「東京に行くことは避けたい」「勤務先の施設から他県に移動して、不特定多数との接触は止められた」との回答を複数いただきました。当養成所も、昨年に続き、会場集合型でのスクーリングを取りやめました。今年度は、オンラインやオンデマンド、個人ワークを活用した形態に変更になります。必要な時間と質を確保できるように工夫をしていきます。このWEBシステムの活用も新たな生活様式といえるのかもしれませんが。

養成所  
ニュース  
プラス

公益財団法人日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所

社会福祉士養成所ホームページURL <http://www.aigo.or.jp/yoseijo/> 



随時配信

各種情報配信

受験対策



※9月頃より  
「受験対策ミニ講座」  
を配信予定

「養成所ニュースプラス」は、登録されたメールアドレスに随時、養成所からのお知らせや受験に関する情報、過去の国家試験問題と解説等※をお届けするメールマガジン（無料）です。通勤・通学や普段の学習の合間に、受験勉強の“きっかけ”としてご利用ください。登録に関してはホームページをご覧ください。

## 令和3年度スクーリングについて

本養成所では今年度のスクーリングにつきまして、例年どおりの実施に向けて準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の収束がいまだ見込めないことから、実施方法を見直すことといたしました。

従来の対面形式でのスクーリングを中止し、インターネットを使用したオンデマンドによる講義動画の視聴とオンライン授業、個人ワークにて代替することとし、現在準備を進めております。当該状況をご理解いただきますとともに、本件に際し、ご不明な点等がありましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

## 国家試験にむけてのおすすめ図書



- 週刊福祉新聞（福祉新聞社）
- 福祉小六法（中央法規出版、ミネルヴァ書房）
- 社会福祉用語辞典（中央法規出版、ミネルヴァ書房）
- 社会福祉士過去問解説集、受験ワークブック、見て覚える！国試ナビ（中央法規出版）
- RB社会福祉士国家試験のためのレビューブック 国家試験問題解説（メディックメディア）